

病室への侵入防げ

神奈川県相模原市の障害者施設で19人が殺害された大量殺人事件を受け、美浜町和田の和歌山病院（南方良章院長）は30日、病棟で刃物を持った不審者に対する初の防犯訓練を行った。御坊署員の扮する犯人役が迫真の演技で刃物を振り回すなか、看護師らが本番さながら必死に応戦。万が一の事態に備えて対応能力を高めた。

神奈川障害者殺傷事件受け



不審者役と刺股で格闘する看護師ら

和歌山病院で初の防犯訓練

7月26日未明、神奈川県相模原市の障害者施設で刃物による無差別殺傷事件が発生。元職員の男が乱入、入所者を次々に刺して19人を死亡させ、職員2人を含む26人に重軽傷を負わせた。和歌山病院では安全管理の徹底を要請する県からの通知もあり、御坊署に指導協力を依頼。病棟内に刃物を持った不審者が現れたとの想定で訓練を行った。

犯人役の御坊署員は刃物を手に4階南病棟に入り、「おい、誰もおらんのか」と徘徊。出くわした看護師が犯人に声をかけて同時に助けを呼んだ。集まった看護師らはストレッチャーや車いすでバリケードを設置。患者のいる病室への侵入を防ぐとともに、危険

を知らせる院内通報を響かせた。他の階から職員らが駆けつけるなか、犯人は刃物を振り回し、「薬くれ」「刺すぞ」と大暴れ。看護師や職員らは刺股（さすまた）で応戦し、スモトレッチャーや車いすで壁に追い詰めた。

人か刺されてもおかしくない。また、実際は戦わず、時間を稼いでください。刃物があるとなんでは死ぬ死なないが大きく変わる。近づくとつながら、まず刃物をたたき落としてほしい」とアドバイス。刺股の使い方や護身術の指導もあり、南方院長は「不審者への対応は、頭でわかっていても実際は難しく、参考になった。患者さんを守るように役立てたい。職員も定期的な訓練も行ってほしい」と話していた。

平成28年9月1日（木曜日）